



## 好奇心や探究心を育む環境構成と援助の工夫

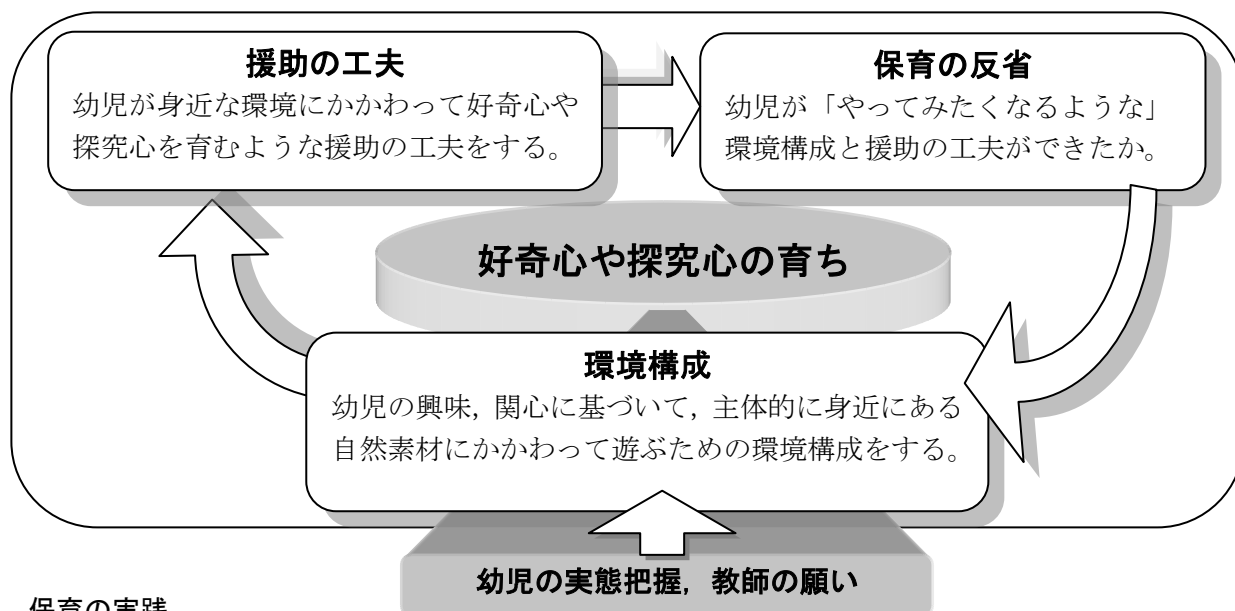
～身近な自然素材を生かした遊びを通して～

南城市立玉城幼稚園教諭 城間真由美

### 1 研究テーマについて

これまでの保育を振り返ると、教師が幼児の興味や関心、発達の捉えが十分でなかったり、教師主導の一方的な保育の展開となったりして、自然素材等が身近にあっても、幼児の活動意欲につなげることができなかつたと反省する。そこで、身近にある自然素材を生かした遊びを通して「やってみたくなるような環境づくり」と「教師の援助のあり方」を探りながら保育実践を繰り返し行い、保育の改善を図る。

### 2 研究の特徴



### 3 保育の実践



保育実践1 いろいろな葉っぱで遊ぼう  
葉の香り・音・浮かべて楽しむ



保育実践2 いろいろな形の木材で遊ぼう  
木の香り・音・積む・転がす・形をつくって楽しむ



### 4 研究の成果

- ① 既製の玩具では味わえない、木や葉などの香りや触感を味わわせたり、自然物のよさを感じさせたりするなどの援助をしたことで、幼児が気づいたり、考えたり、発見したりして、好奇心や探究心をわき立たせることができた。
- ② 不揃いな形の木材や木の実、種などの自然素材を意図的に取り入れて環境構成をすることで、幼児が試したり、工夫したりして自然物の素材から学び、好奇心や探究心が高まっていった。

## 好奇心や探究心を育む環境構成と援助の工夫

### —身近な自然素材を生かした遊びを通して—

南城市立玉城幼稚園教諭 城間真由美

#### I テーマ設定の理由

近年、幼児を取り巻く遊びの環境は電子玩具や、ブロック等、既製のものが豊富にあり、次から次へと幼児の興味を誘う玩具が日々生み出されている。最近の幼児の遊ぶ環境は、都市部や山間部を問わず、地域の遊び空間の減少や交通量の増加、不審者情報の多発からか、安全な室内での映像文化等を利用した遊びに偏る現状がある。

以前のように身近な素材を使って創造的に遊びをつくり出し、地域の中で仲間と一緒に、生き生きと駆けまわる元気でたくましい幼児が少なくなってきたように思われる。幼稚園における幼児の姿を見ても、既製の玩具に慣れ親しんだ幼児は、身近に豊かな自然環境があっても、そこに自ら働きかけ、創造性を生かした遊びの展開が難しいように感じられる。

かつては、笹の葉で舟をつくり川に浮かべ競ってみたり、葉で笛をつくって音を出して楽しんだり、友達のアイデアにヒントを得て、お互いに育ち合いながら自然の中で遊んでいた。

自然の中から見つけ出した葉や木ぎれなどの素材は、既製品の玩具では味わえない香りや手触りがある。また、工夫して創り上げた玩具には愛着が感じられ、大切に使用されることであろう。このような体験を幼児が五感を使い、自ら身近な自然や自然物に働きかけ、創意工夫しながら遊びに必要な物をつくったり、つくった物で遊びを展開したりして、出来上がった喜びを味わったりしながら遊んで欲しいと願う。

幼稚園教育の基本に、幼稚園教育は「環境を通して行うものである」とあり、幼稚園教育要領解説「環境」の領域の中で「環境に対して、親しみ、興味を持って積極的にかかわるようになることが大切である。さらに、ただ単に環境の中にあるものを利用するだけではなく、そこで気付いたり、発見したりしようとする環境にかかわる態度を育てることが大切である。」と述べられている。

幼稚園においては幼児の身の回りにあるすべてのものが環境であり、幼児の遊びは、環境にかかわることによって生み出されていく。

これまでの保育を振り返ってみると、自然素材等が身近にあっても、教師が幼児の興味、関心や発達の捉えが十分でなかったり、教師主導の一方的な保育の展開となったりして、幼児の活動意欲につなげることができなかつたと反省する。

そこで本研究においては、幼児に身近な自然素材を使って、創意工夫しながらつくる楽しさや喜びを味わわせ、既製の玩具では味わえなかった感動体験が出来るための環境構成や、主体的に遊びに取り組めるような教師の援助のあり方について探りたく本テーマを設定した。

#### II 研究目標

幼児が好奇心や探究心を育むために、身近にある自然素材を生かした遊びを通して「やってみたくなるような環境づくり」と「教師の援助のあり方」を探る。

#### III 研究方法

保育実践の遊びにおいて、次のような方法を行う。

- 1 幼児が身近な自然環境に好奇心や探究心をもち、積極的に遊びにかかわるような環境構成の工夫
- 2 幼児のイメージを広げ、主体的に遊びに取り組めるような教師の援助のあり方の工夫

## IV 研究内容

### 1 幼児期の好奇心や探究心とは

幼児の好奇心とは、園生活のすべての環境や、初めて出会う場面に対して「なんだろう」と興味や関心を抱く心の動きである。こういった傾向は、見たがる、知りたがる、試したがる幼児の姿そのものであり、環境へかかわりたいという意欲の強さとして捉える。

幼児が環境に対して立ち止まって考えたり、何かを感じたり新たな気づきなどの好奇心をもってかかわる中で「なぜ?」「どうして?」と不思議に思うことや疑問、発見などの体験を得る。そこで、幼児なりに試したり、工夫したりして試行錯誤を繰り返しながら「もっとやってみたい」と探究心をもつようになる。つまり探究心は、興味や関心、好奇心を伴いながら、幼児の知的好奇心の広がりや深まりにつながっていくことと捉える。

### 2 好奇心や探究心を育む環境構成の工夫

幼児が「やってみたくなるような環境」を構成するには、幼児の興味や関心のあり方、どんなふうに関わりかかっているか、また発達段階をしっかりと理解した上で、幼児がじっくりとかかわれる時間や空間などの確保が必要である。そこで幼児が十分に環境にかかわることができるように教師は、意図的、計画的に環境を構成していかなければならない。また、教師が魅力的な環境を構成し、それらの環境に幼児を出会わせていくことと同時に、そこから生まれた遊びを、生活へと取り入れていくことを意識して環境を構成していくことが大切である。

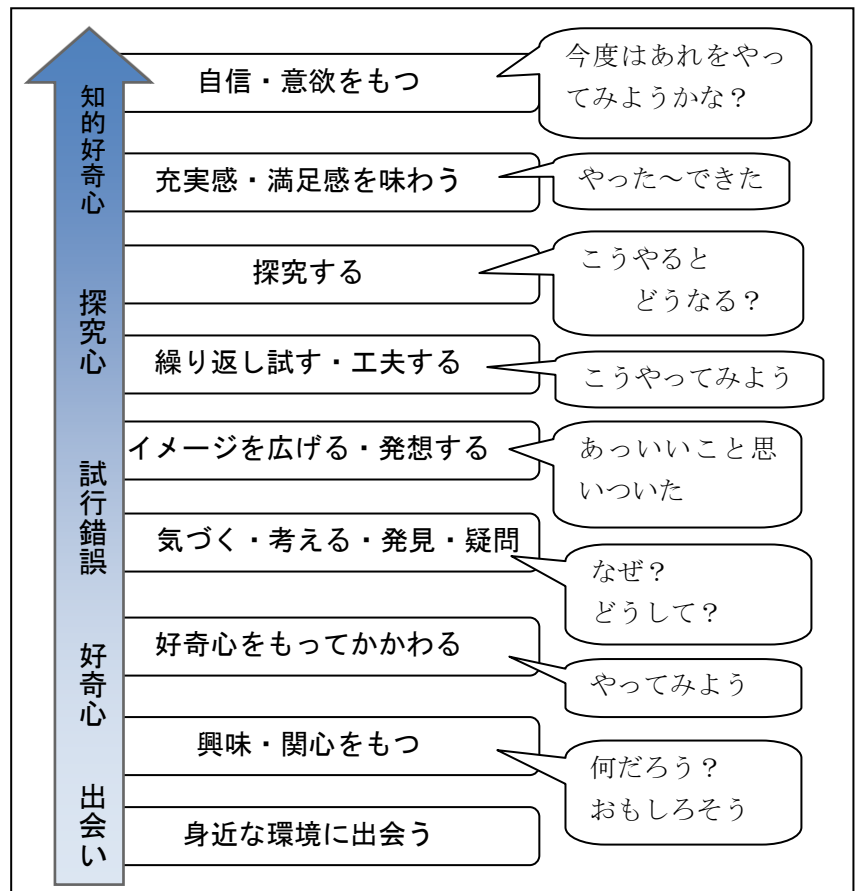


図1 好奇心・探究心を育む過程

### 3 好奇心や探究心を育む援助の工夫

幼稚園教育要領・環境「内容の取り扱い」に「幼児は、大人と違って、自然を目の前にすれば、おのずと自然の姿に目を留め、心を動かされるとは限らない。教師自らが感性を豊かに保ち、自然とその変化の素晴らしさに感動することや幼児がちょっとした折に示すささやかな自然へのかかわりに共鳴していくことが大切」とある。

教師は、幼児一人一人の発達や体験に目を向け、一緒にかかわったり、イメージを共有したりして、体験からどのような興味や関心が生じてきたかを理解することが大切である。また、幼児の興味や関心を追求できるようにすることや、体験から学んだことを読み取り、さらに、次への活動につながる言葉かけを意識することも重要である。

#### 4 身近な環境とのかかわり

幼稚園教育要領解説に「幼児は身近な環境に興味をもち、それらに親しみをもって自らかかわるようになる。また、園内外の身近な自然に触れて遊ぶ機会が増えてくると、その大きさ、美しさ、不思議さに心を動かされる。幼児はそれらを利用して遊びを楽しむようになる。幼児はこのような遊びを繰り返し、様々な事象に興味や関心をもつようになっていくことが大切」とある。

幼児は身近な環境に直接かかわることで興味や関心をもち、好奇心を抱く。初めは触感を試し、物とのかかわりを楽しんでいるが、興味をもって繰り返しかかわる中で気づいたり、発見したりして幼児なりのイメージを広げて環境とのかかわりを楽しむようになる。さらに、イメージを共有できる仲間と出会ったり、試行錯誤したりしながら探究する喜びを味わう。つまり、幼児は身近な環境にかかわる中で気づいたり発見したりすることを「おもしろい」と思うようになり生活や遊びに取り入れようとする態度へとつながっていくと考える。

#### 5 自然物を遊びに取り入れる意義

幼稚園教育要領解説に「幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、幼児の心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われる」とある。

知識以上に体験を重ねていくことが重要である幼児期に、木や葉、木の実や草花などの自然の恵みを取り入れることによって、幼児が手で触ったり、全身で感じてみたりして、試したり工夫したりしながら、遊ぶ楽しさを十分に味わい、その性質や仕組みなどを感じ取るようになる。さらに、自然に繰り返しかかわる中で、自然の不思議さや自然と交わる喜びの感情がわき上がる。「どうして？なぜこうなるの？」などと思いを巡らせ思考力を働かせるようになる。つまり、主体的に自然とのかかわることで豊かな感情や好奇心を育み、思考力や表現力の基礎を形成する重要な役割を持つ。

### V 研究の実際

幼児が「やってみたくなるような環境構成」と「教師の援助」を工夫し、2回の保育実践を行い、改善を図る。

#### 1 保育実践（1回・6月）「いろいろな葉っぱで遊ぼう」

##### (1) 保育のねらい

- ・葉に興味、関心をもってかかわる。
- ・葉をつかって遊べることの楽しさを味わう。

##### (2) 検証のねらい

- ・身近にある自然素材の葉に触れて、遊べる楽しさを味わわせるような環境構成と援助の工夫をする。

##### (3) 環境の工夫

- ・身近にある自然素材の葉をいくつか用意し、種類別にざるに入れて置く。
- ・つくった物（ささ舟）で遊べるように水場を工夫する。
- ・「葉っぱ遊び」の紹介を園長にお願いする。
- ・限られた空間の中で、テーブルを使ってじっくり取り組める場と、友達と一緒に遊びが展開できる場を設定する。
- ・できた作品を飾ったり、友達に紹介したりして刺激になるようにする。

##### (4) 教師の援助

- ・葉の香りや触感を味わい、自然物の何かに気づけるような言葉をかける。
- ・懸命に取り組む幼児の姿や、発見を大事に受け止め、認めたり、褒めたりして意欲を高める。
- ・出来た作品や工夫して遊んでいる姿を認め、遊びが発展していくような援助をする。

(5) 実践計画と結果

月日	検証のねらい	予想される幼児の姿	○環境構成 ★援助の工夫	実際の幼児の姿	検証結果
6月27日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近にある葉の素材に興味や関心を持たせる。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>葉に触れる。</li> <li>葉の香りを感じる。</li> <li>葉で遊べることを知り遊ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近にある自然素材の葉を集め、種類別に分けて置く。</li> <li>★葉の素材を味わえるような言葉をかける。</li> <li>○活動が一カ所に集中しないように、葉の素材を分け、場所を離して準備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな葉に触れて(ちくちく・ざらざら・つるつるなど)の触った感じや葉でお相撲を楽しみながら「この葉強い」などと葉の素材の性質に気づいたり、友達と一緒にそれぞれの遊びを考え出して遊びを進めていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素材の触感を味わいながら、遊べる楽しさを味わっていた。</li> <li>・教室で遊びを展開するには狭く、更にささ舟を浮かべて存分に遊ぶための空間が満たされていない。環境の再構成が必要である。</li> </ul>
6月28日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近にある葉の素材で遊ぶ楽しさを味わわせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前日の「葉っぱ遊び」(虫かご・アクセサリー・笛・相撲・舟など)の続きを楽しむ。</li> <li>・友達の遊びを見て刺激を受ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○みんなが遊びにかかわれるように活動の場所を教室から中庭に移す。</li> <li>○ささ舟遊びをする水場を大きくする。</li> <li>○葉の名前を表示する。</li> <li>★遊びの楽しさを共有できるように教師も一緒にかかわる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と試行錯誤してつくっている姿や、つくった作品で競争して遊びを楽しんでいる姿が見られた。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒に遊ぶことで考えを出し合いながら遊びを展開していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の場所を変えることで遊びの輪が広がった。</li> <li>・水場を広げたことで、友達とささ舟で競争する楽しさを味わわせることができた。</li> <li>・教師も一緒にかかわることで安心感や認めてもらう喜びを感じるさえることができた。</li> </ul>
6月29日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近にある葉の素材に主体的にかかわって遊ぶ楽しさを味わわせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉で遊ぶ楽しさを味わいながら、幼児なりに遊びをつくり出す。</li> <li>・友達の遊ぶ様子を見て自分もやってみようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○少なかった素材の量を増やした。</li> <li>○葉でつくった作品のいくつかを展示して紹介する。</li> <li>★幼児が「やってみたくなる」「試してみたくなる」ような言葉をかけて遊びが発展するようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達につくり方を優しく教えてあげる幼児や、自から葉を拾ってきて浮かべて遊ぶ子の姿も見られた。</li> <li>・友達と一緒につくったもので遊び、遊びのルールをつくり出したりしながら工夫して遊ぶ姿が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で素材を探し、浮かべて試して遊んでいた。</li> <li>・葉を試行錯誤しながら何度も丸めて挑戦し、音が出る楽しさや、できた満足感を味わっていたことなどから自然素材を意図的に取り入れたことで思考力が高まった。</li> </ul>

### 【考察】

- ・遊びを通して、葉が浮かんだり、くっついたりする不思議さを感じたり、友達と競争し合ったりして、工夫して遊びをつくり出すことができ、自然物で遊ぶ関心が高まった。
- ・「どうすれば葉の音が出るかな?」「どうするとお相撲で勝てるかな?」などつくる過程や遊びを通して試行錯誤を繰り返し、思考力が高まった。
- ・幼児の人数や、教師の意図することを考慮して環境を構成することで、活動の輪が広がり、遊びの刺激を受けやすい環境になった。
- ・幼児が意欲的につくろうとしていたが、笛や虫かごを一人でつくるには難しく、教師の援助が行き届かなかったことから、幼児の発達の捉えが十分でなかった。

### 【改善】

- ・幼児の発達の捉えや素材の教材研究をしっかりとおさえ、幼児が創意工夫しながら遊びが展開されていくように環境構成と援助の工夫をしていく。

#### 試行錯誤をする



どこにつなげようかな?



どうすれば音が出るのかな?

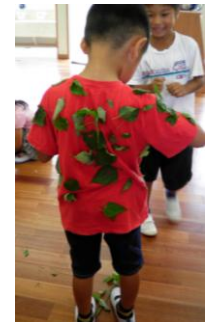


どうすれば勝てるかな?

#### 知的好奇心を育む



浮かぶ、くっつく不思議と楽しさを味わう。



## 2 保育実践（2回・7月）「いろいろな形の木材で遊ぼう」

### (1) 設定の理由

- ① 教材観（省略）
- ② 幼児観（省略）
- ③ 指導観

幼児の好奇心や探究心を育てるため、これまでの実践保育を通して幼児がやってみたくなるような素材や環境の工夫を行ってきた。結果として、幼児の発達に即した環境構成の工夫や幼児の意欲につなげる援助の工夫が大切であると考えている。

そこで、幼児に身近な自然素材をつかって、創意工夫しながらつくる楽しさや喜びを味わわせ、既製の玩具では味わえなかった感動体験や、主体的に遊びに取り組めるような環境構成と援助の工夫をしていく。

### (2) 保育のねらい

- ・木の素材に興味や関心をもち、試したり、工夫したりして楽しく遊ぶ。
- ・木の素材で遊ぶことを通して、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。

### (3) 検証のねらい

- ・身近にある自然物の木材に触れ、遊べる楽しさを味わわせるような環境構成と援助の工夫をする。

### (4) 環境の工夫

- ・身近にある自然素材の木を意図的にいろいろな形に切り、種類別に入れて置く。
- ・素材の名前を表記し、自然物への関心を高めるようにする。
- ・友達の遊びを見て刺激し合えるように環境をつくる。
- ・中庭や遊戯室を利用し、活動が広がるように、またじっくり取り組めるような環境を整える。
- ・できた作品を見合ったりしてお互いの刺激になるように展示の場を設ける。

(5) 教師の援助

- ・木の香りや触感を味わえるような言葉をかける。
- ・遊びの様子を見守ったり，イメージを共有したりしながら遊びが発展していけるように言葉をかける。
- ・必要に応じて素材の量を出し入れしたり，イメージに合った素材と一緒に考えたりする。
- ・できた作品や工夫して遊んでいる姿を認め，褒めて，幼児の自信につなげたり，幼児同士が刺激し合ったりできるようにする。

(6) 実践計画と結果

月日	検証のねらい	予想される幼児の姿	○環境構成 ★援助の工夫	実際の幼児の姿	検証結果
7月5日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な自然素材の木材に触れて遊ぶことを通して木の素材に興味，関心を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木材に触れて触感を味わったり，香りを感じたりする。</li> <li>・木材を並べたり，積んだりして遊ぶ。</li> <li>・木材の形を何かにとえて遊ぶ。</li> </ul>	<p>○いろいろな大きさや形に切り，木材を分別して置く。</p>  <p>★幼児が木材から発想したいろいろなイメージを教師も一緒に共有できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「この形，きりんに似ている」や「この木は黒いけど，これは白いよ」など木材の形や色に興味や関心を示していた。</li> <li>・木を積み上げて遊んだり，たたいて音を楽しんだりしていた。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意図的に不揃いの形の木材を用意することで，幼児が創意工夫した遊びを展開することができた。</li> <li>・木の素材に関心を寄せていない幼児への言葉かけや，遊びの紹介をする場をつくる。</li> </ul>
7月7日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木の素材を味わいながら友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木を何かにとえたり組み合わせたりして遊ぶ。</li> <li>・友達と一緒にイメージを共有しながら遊ぶ。</li> </ul> 	<p>○幼児のかかわる人数や使う量によって素材の数は考慮して準備する。</p> <p>★「これ〇〇に似ている」などの幼児の声を拾いながら教師もイメージを共有していくようにする。</p> <p>★教師も一緒に遊びにかかわることで安心して過ごせるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達とイメージを共有し，太鼓の達人ごっこや，「おれたちの島」づくりを楽しんでいた。</li> <li>・木の素材が丸いことを利用して，友達と一緒に転がして楽しんでいる姿が見られた。</li> <li>・木の音に興味，関心を示し「やりたいな」と遊びに加わってくる幼児がいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師も一緒に遊ぶことで幼児の遊びに共感したり，試行錯誤したりすることで興味，関心が高まった。</li> <li>・遊びの様子を写真で掲示することで，幼児の興味，関心を広げ「やってみよう」の意欲につなげる。</li> </ul>

<p>7月11日(月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と一緒に考えを出し合いながら遊ぶことを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>木材を組み合わせたたり積み上げたりしながら遊ぶ。</li> <li>木材をたたいて音を楽しむ。また、その音でリズムをつくるなどして楽しむ。</li> </ul>	<p>○友達とかかわって遊べるように活動の場所を遊戯室に広くとる。</p>  <p>★片付けは主体的に取り組めるような言葉をかける。また、主体的に活動している姿を認め、褒める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の遊びを見て刺激を受け、主体的に活動に参加したり、太鼓にたとえて木の音を楽しんだりしていた。</li> <li>掲示されている遊びの様子を見て興味、関心を持っている姿が見られた。</li> </ul> 	 <ul style="list-style-type: none"> <li>幼児のイメージが広がってきたことから、木の素材だけでなく木の実や種などの小さな素材を取り入れ、イメージが広がるように工夫する。</li> </ul>
<p>7月12日(火)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>木材や葉、木の実などの自然素材に興味、関心を持ち、イメージを広げながら楽しんで遊ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>木材などの自然素材を組み合わせながら工夫して遊ぶ。</li> <li>木材以外の素材にも関心を持って遊び、平面や立体の表現遊びを楽しむ。</li> </ul>	<p>★ボンドで固定することで立体的な表現を楽しめるようにする。</p> <p>○作品の名札を準備する。</p> <p>★できた作品は紹介したり、展示しておく、幼児の自信につなげたり、他の幼児の刺激になるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>素材に興味、関心を持ってかかわり、自分のイメージしたことを表現して楽しんでいった。</li> <li>展示した作品をみて「やりたいな」と幼児の声が聞こえた。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>木材以外の素材(木の実や種等)を喜び、イメージが更に広がっていった。</li> <li>できた作品をすぐに展示することで他の幼児の刺激になり次の活動への意欲につながった。</li> </ul>
<p>7月13日(水)</p> <p>本時</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>木材で遊ぶことを喜び、試したり、工夫したりしてイメージを表現する楽しさを味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>素材からイメージしたことを形にしていく。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>友達とイメージを共有しながら遊ぶ。</li> </ul> 	<p>○じっくりと創意工夫することができるようテーブルの環境を整える。遊戯室も活用する。</p>  <p>★イメージに合う形や大きさ、素材が無い時は、考えさせたり、別の物を用いたりしながらイメージに近づけるよう援助する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「この枝どうしたら真っすぐ立つかな?」「これは目にしよう」などと木材や木の実をイメージに合わせてみたりしながら、試行錯誤している姿が見られた。</li> <li>「昨日の続きをやってもいい?」とイメージを更に広げ、継続して活動をする意欲的な姿もあった。</li> <li>友達と一緒に大きな島をつくり、魚を泳がしている姿も見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示されている作品を見ながら刺激を受け、「やってみようとする」意欲につながった。</li> <li>じっくり取り組む時間と場所を確保してあげることで活動意欲を満たし満足感を味わわせることができた。</li> </ul>



(7) 保育の展開（本時）

<p>幼児の姿</p>	<p>・いろいろな形に切った木材を使って、自分のイメージまたは、友達と一緒にイメージを共有しながら並べてみたり、積み上げたりして遊んでいる姿が見られる。 ・木材を並べて太鼓にたとえ自然素材の音を楽しんでいる姿も見られる。</p>		
<p>ねらい</p>	<p>○身近な自然の素材に興味や関心をもち、試したり、工夫したりして遊ぶ。</p>	<p>内容</p>	<p>・身近な自然素材に触れ、おもしろさや不思議さに気づく。 ・自分なりにまたは、友達と一緒に考えたり、工夫したりして遊ぶ楽しさを味わう。</p>
<p>時間</p>	<p>予想される幼児の活動</p>	<p>○環境構成      ★教師の援助</p>	
<p>7:30 登園する ・挨拶、所持品の始末をする。</p> <p>8:30 朝のひと時 ・すきな絵本をみる。 ・植物に水やりをする。</p> <p>9:10 遊びに必要なものを準備する。</p> <p>9:45 自然素材で遊ぶ ・木の素材を味わう ・木の素材で遊ぶのを楽しむ ・並べる      ・積み上げる ・木の香りに触れる      ・転がす ・たたいて音を楽しむ イメージしたものを形にしていく。</p>    <p>11:00 片付けをする ・できた作品を展示する。 ・残った材料は分別して片付ける。(木材, 葉, ボンド等)</p>	<p>★幼児一人一人と挨拶を交わしながら心身の状態を把握する。 ○朝の一時に絵本を読んだり図鑑を見たりして過ごせるようにテーブルや椅子の環境を整えておく。 ★水やりをしながら植物や花の生長に気づくような言葉かけをする。 ○暑さを考慮してテントを張り、涼しい環境で遊びが継続できるように配慮する。 ★遊びに必要なものを幼児達と相談しながら準備をすることで意欲を高める。 (木材, 木の実, 葉, ボンド, ダンボール, はさみ等) ○遊びの場は、他の幼児の遊びが見えるようにテーブルの配置や素材を置く位置を考えて環境を設定する。 ○違う木の素材をいろいろな形に切って置く、葉や木の実などの素材も準備し、イメージが膨らむようにする。 イメージに合うものを求めやすいように大きさや種類別に分別する。</p>     <p>枝・小さな木材・木の実・種など      イメージを表現する</p> <p>★求めている素材が無くて困っている子へは、できるだけイメージに合った素材と一緒に探してみたり、考えてみたりして一人一人のイメージを受け止めて援助する。 ○できた作品を展示する場所を設ける。(名札を準備する) ★活動が途中の子は次回に続きができることを知らせ、期待をもたせながら片付けができるようにする。 ○素材の大きさを分別して片付けができるようにする。</p>		
<p>反省評価</p>	<p>身近な自然の素材に興味や関心をもち、試したり、工夫したりして遊ぶことができたか。</p>		

## (8) 検証保育（本時）の評価

### ① 環境の工夫の面から

ア 活動の場に大きなテーブルを設定したことで、友達どうし刺激し合いながら、試したり、工夫したりして主体的に活動する姿につながった。

イ 細かい自然素材を準備したことで幼児が興味、関心をもってかかわりイメージを広げることができた。

ウ 作品の展示は、他の幼児の刺激にもなったが、つくった本人が認められたり、褒められたりする場にもなり自信と次への意欲につながった。

### ② 教師の援助の面から

ア 教師が幼児のイメージを共有したり、素材と一緒に考えたりするなどの援助をしたことで、幼児の豊かな感情や好奇心を育み、達成感や成就感を味わわせることができた。

イ 活動後に幼児の作品について、工夫したところや、よいアイデアを紹介する場を設けるなどの援助がたりなかった。

## (9) 検証保育のまとめ

① 木の素材を意図的に切ったり、大きさや形を種類別に分けて置いたりすることで、イメージが広がり、試行錯誤をしながら遊びを展開する楽しみが得られた。

② 友達と一緒にイメージを共有しながら遊んだり、刺激を受けたりしながら遊びを展開し活動の輪が広がった。

③ 広い場所で活動をすることによって、他の幼児とかかわりができ、試行錯誤しながら遊びを展開する楽しさを味わわせることができた。

④ 活動の日程を一日で終えることなく、継続できるように環境を整えたことで「続きをしたい」の気持ちを大事にすることができた。またそれが意欲につながった。

⑤ 素材をすぐに納めてしまうのではなく、園生活の中で幼児が必要に応じて取り出しができるようにしておくことで、自然素材を主体的に生活に取り入れていくことができるようにしたい。

## VI 研究のまとめ

本研究において、身近にある自然素材を生かした遊びを通して「好奇心や探究心を育む」ための環境構成と援助のあり方を探りながら、保育実践を繰り返し行った。2回の保育実践の結果で分かったことをまとめる。

### 1 環境の工夫・援助の工夫・幼児の変容から

環境の工夫	保育実践1回 「いろいろな葉っぱで遊ぼう」	・活動の場を広くすることで、遊びの刺激を受けやすい環境になった。 ・つくったもので遊ぶ環境を再構成していったことで遊びの工夫につながった。 ・友達や教師と一緒に試行錯誤しながらかかわれる人的環境の大切さを再確認した。
	保育実践2回 「いろいろな形の木材で遊ぼう」	・活動の場を広く設定したり、友達の遊びの様子から刺激を受けたりすることができるように場の設定をすることが大事であると分かった。 ・自然素材で遊んでいる様子を写真で掲示したり、作品を展示することで他の幼児の刺激になり、「やってみようとする」意欲につながった。
援助の工夫	保育実践1回 「いろいろな葉っぱで遊ぼう」	・幼児の興味、関心に添い、発達段階に応じた活動が展開できるような援助が必要であると痛感した。 ・自然物の香りや触感を教師も一緒になって味わうことで共感し合うことができた。

援助の工夫	保育実践2回 「いろいろな形の木材で遊ぼう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の日程を一日で終えることなく、継続できるような環境を整えておくことで「続きをしたい」の気持ちを大事にすることができ、意欲につながった。</li> <li>・イメージに合った素材がなく困っている幼児に、教師と一緒に方法を考えることで幼児の表現が広がった。</li> </ul>
幼児の 変 容	保育実践1回 「いろいろな葉っぱで遊ぼう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然物の香りを嗅いだり、触れた触感や音を出したりして、自然物に興味、関心をもってかかわり、浮かぶ、くっつく、音が出る、などの直接体験を通して探究心が育まれていった。</li> <li>・教師と一緒にかかわったことで安心感や認めてもらえる喜びを感じることができ、「やってみようとする」意欲につながった。</li> </ul>
	保育実践2回 「いろいろな形の木材で遊ぼう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・触感を試し、興味をもって繰り返しかかわる中で、素材の性質や仕組みに気づき、遊びが楽しくなって自然物とのかかわりが深まっていった。</li> <li>・「昨日の続きをやってもいい」とイメージを更に広げ、継続して活動をする意欲的な姿につながった。</li> <li>・自然物の素材からいろいろなイメージがわき、好奇心や探究心が育っていった。</li> </ul>

## Ⅶ 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

(1) 既製の玩具では味わえない、木や葉などの香りや触感を味わわせたり、自然物のよさを感じさせたりするなどの援助をしたことで、幼児が気づいたり、考えたり、発見したりして、好奇心や探究心をわき立たせることができた。 (Ⅵ-1)

(2) 不揃いな形の木材や木の実、種などの自然素材を意図的に取り入れて環境構成をすることで、幼児が試したり、工夫したりして自然物の素材から学び、好奇心や探究心が高まっていった。 (Ⅵ-1)

### 2 今後の課題

(1) 幼児が自ら身近な自然環境に働きかけ、様々な活動を生み出していけるような、年間を見通した園内の自然環境の工夫。

(2) 幼児の発達段階に応じた教材研究の充実と、好奇心や探究心を育む教師の言葉かけや援助の工夫。 (Ⅵ-1)

#### 《主な参考文献》

文部科学省	『幼稚園教育要領解説』	フレーベル館	2008年
無籐 隆 編著	『幼稚園教育要領ハンドブック』	学習研究社	2008年
無籐 隆 編著	『新幼稚園教育要領・新保育所保育指針のすべて別冊 発達29』	ミネルバァ書房	2009年
柴崎正行 編著			
小田 豊 編著	『新たな幼稚園教育の展開幼稚園教育の充実に向けて』		
神長美津子 編著		東洋館出版社	2003年
那覇市立教育研究所	『平成17年度紀要』		2005年